

# はーとふるメッセージ

## 2001

### 第6回

#### 特選作品紹介

6回にわたって、「はーとふるメッセージ2001」の特選作品を掲載しました。いずれの作品も、人の心を打つ、それぞれの作者の温かい心が感じられるものでした。

平成14年度も、作品を募集中です。(詳しくは「広報ひこね」7月1日号をご覧ください。)多数のご応募をお願いします。

問い合わせ先 〔市役所3階〕 ☎21411 番内線352番 FAX 21398番

#### 作文・小学生の部



西岡 聡見 さん  
(亀山小学校5年=応募時)

#### ちがいをみとめあつて

四年生のときでした。私たちは一人のもう学校の先生に出会いました。その先生は目が見えませんでした。私は、「この先生すごいなあ、白杖一本だけで歩けるんだもん。」と思いつつ、私の学校の階段を上がついていく先生を見ていました。

私たちは、先生からたくさん話を聞きました。「目が見えないのに、どうしてそんなに明るくしていられるん

ですか?」

だれかがたずねました。私もそうだなあとうなずいてみると、先生は、

「暗くしていても、目は見えるようにならないだろう。暗くしていても、目が見えるようになるんだったら、ずっと暗くしているよ。」

と笑顔で答えてくれました。私は、「なんてすてきな人なんだろう。」と思いました。

私がもし、目が見えなかったら、そんなふうを考えて、生きていけるだろうか。私は不安で何にでもびくびくしているかも知れませんが、私が一番こわいのは、「みんなとちがう」という目です。自分とちがう人を見たり、ちがうことをしている人を見ると、「あの人、変だよ」「おかしいな」と自分とちがうことをおもしろがったり、不思議がったり、そして、しまいに遠ざかったりしてしまうところがあ

るのではないのでしょうか。

私は、前にねんざして、足にギブスをはめて学校に行つたことがありません。そのとき、友達

が心配そうに、「だいじょうぶ? いたいなの?」

と聞いてくれました。私はとてもうれしかったです。でも、何

度も何度も同じことを聞かれると少しいやな気持ちになつたこ

とを覚えていきます。ろう下を歩くたび、じろじろと見られてい

るような気持ちになりました。

まわりの友達も、そして私も、

今の私の体はほかの人とちがう

そんな見方があつて、自分でそ

のちがいにびくびくしていたよ

うに思つたのです。人とのちがい

が、何かとても悪いことのように

#### 標語・一般の部



古古 徳子 さん  
(地蔵町)

#### 無意識の

#### 言葉の差別に

はっとして

#### 選評

人はそれぞれ違います。その違いが認められない弱さも人にはあります。作者は、盲学校の先生の言葉によって、自分の心の弱さと向き合うことができま

した。また、どんな困難な状況にあると、自分らしく明るく生きるこの大切さも学びました。自分自身の心を問い直し、よりよく生きていくとすると、ころが読み手の心に響きました。